

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第6134513号
(P6134513)

(45) 発行日 平成29年5月24日(2017.5.24)

(24) 登録日 平成29年4月28日(2017.4.28)

(51) Int.Cl.

F I

H O 1 R 13/639 (2006.01)

H O 1 R 13/639 A

A 6 1 B 8/00 (2006.01)

A 6 1 B 8/00

A 6 1 B 17/34 (2006.01)

A 6 1 B 17/34 5 1 0

請求項の数 11 (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2012-526149 (P2012-526149)
 (86) (22) 出願日 平成22年8月3日(2010.8.3)
 (65) 公表番号 特表2013-503425 (P2013-503425A)
 (43) 公表日 平成25年1月31日(2013.1.31)
 (86) 国際出願番号 PCT/IB2010/053523
 (87) 国際公開番号 W02011/024091
 (87) 国際公開日 平成23年3月3日(2011.3.3)
 審査請求日 平成25年8月1日(2013.8.1)
 審判番号 不服2015-21983 (P2015-21983/J1)
 審判請求日 平成27年12月11日(2015.12.11)
 (31) 優先権主張番号 61/238,419
 (32) 優先日 平成21年8月31日(2009.8.31)
 (33) 優先権主張国 米国(US)

(73) 特許権者 590000248
 コーニンクレッカ フィリップス エヌ
 ヴェ
 KONINKLIJKE PHILIPS
 N. V.
 オランダ国 5656 アーエー アイン
 ドーフェン ハイテック キャンパス 5
 High Tech Campus 5,
 NL-5656 AE Eindhove
 n
 (74) 代理人 100122769
 弁理士 笛田 秀仙

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 磁気診断プローブコネクタシステム

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

着脱可能な無線超音波プローブに診断又は治療装置を結合する無線超音波プローブ用の磁気接続システムにおいて、前記装置が、前記装置に結合された第1の端部及び第2の端部を持つケーブルを持ち、前記接続システムが、

前記プローブ内又は上に配置された第1のコネクタ部分であって、平らな面を有する第1のコネクタ部分と、

前記装置ケーブルの前記第2の端部を終端する第2のコネクタ部分であって、平らな面を有する第2のコネクタ部分と、

を有し、

前記第1のコネクタ部分が、第1の四極子として配置された磁石の第1の対を有し、前記第1の対を構成する第1及び第2の磁石は互いに離れて配され、前記第1のコネクタ部分の各磁石の磁極が、前記第1のコネクタ部分の前記平らな面の角の近くに位置するように配され、前記第1の磁石の磁極間の距離が、前記第2の磁石の磁極間の距離より小さく

、
 前記第2のコネクタ部分が、第2の四極子として配置された磁石の第2の対を有し、前記第2の対を構成する第3及び第4の磁石は互いに離れて配され、前記第2のコネクタ部分の各磁石の磁極が、前記第2のコネクタ部分の前記平らな面の角の近くに位置するように配され、前記第3の磁石の磁極間の距離が前記第1の磁石の磁極間の距離に等しく、前記第4の磁石の磁極間の距離が前記第2の磁石の磁極間の距離に等しく、前記第1及び

第2のコネクタ部分は、各々、それぞれの前記平らな面に少なくとも1つの接点を有し、前記第1のコネクタ部分の前記接点が前記第1のコネクタ部分の前記平らな面に埋め込まれた接点パッドであり、

前記第1及び第2のコネクタ部分は、前記第1及び前記第3の磁石の磁気結合並びに前記第2及び前記第4の磁石の磁気結合により、前記接点が互いに接続するように構成される、磁気接続システム。

【請求項2】

前記第1及び第2のコネクタ部分と一緒に結合される場合に、前記第1の磁石及び前記第3の磁石が新たな四極子を形成し、前記第2の磁石及び前記第4の磁石が別の新たな四極子を形成するように構成される、請求項1に記載の磁気接続システム。

10

【請求項3】

前記第1及び第2のコネクタ部分は、所定の向きでのみ接続するように物理的に構成される、請求項1又は2に記載の磁気接続システム。

【請求項4】

請求項1に記載の磁気接続システムを有するケーブルとともに使用するのに適した無線超音波プローブにおいて、

前記接続システムの前記第1のコネクタ部分を有するプローブケースであって、前記第1のコネクタ部分が平らな面を有する、プローブケースと、

前記ケース内に配置されたアレイトランスデューサと、

前記ケース内に配置され、前記アレイトランスデューサに結合された取得回路と、

20

前記ケース内に配置され、画像情報信号をホストシステムに無線で送信するように機能する送受信器と、

前記ケース内に配置され、前記アレイトランスデューサ、前記取得回路及び前記送受信器に電力供給電圧を提供するように動作する電力回路と、

前記ケース内に配置され、前記電力回路に結合されたエネルギー蓄積装置と、

前記ケーブルに結合され、前記接続システムの前記第2のコネクタ部分を有するケーブルコネクタであって、前記2のコネクタ部分が平らな面を有する、ケーブルコネクタと、を有し、

前記第1のコネクタ部分が、第1の四極子として配置された磁石の第1の対を有し、前記第1の対を構成する第1及び第2磁石は互いに離れて配され、前記第1のコネクタ部分の各磁石の磁極が、前記第1のコネクタ部分の前記平らな面の角の近くに位置するように配され、前記第1の磁石の磁極間の距離が、前記第2の磁石の磁極間の距離より小さく、

30

前記第2のコネクタ部分が、第2の四極子として配置された磁石の第2の対を有し、前記第2の対を構成する第3及び第4の磁石は互いに離れて配され、前記第2のコネクタ部分の各磁石の磁極が、前記第2のコネクタ部分の前記平らな面の角の近くに位置するように配され、前記第3の磁石の磁極間の距離が前記第1の磁石の磁極間の距離に等しく、前記第4の磁石の磁極間の距離が前記第2の磁石の磁極間の距離に等しく、

前記第1及び第2のコネクタ部分は、各々、それぞれの前記平らな面に少なくとも1つの接点を有し、前記第1のコネクタ部分の前記接点が前記平らな面に埋め込まれた接点パッドであり、

40

前記第1及び第2のコネクタ部分は、前記第1及び前記第3の磁石の磁気結合並びに前記第2及び前記第4の磁石の磁気結合により、前記接点が互いに接続するように構成される、無線超音波プローブ。

【請求項5】

前記ケーブルが、前記エネルギー蓄積装置を充電する電力供給電位を伝達する、請求項4に記載の無線超音波プローブ。

【請求項6】

前記ケーブルが、超音波画像の表示のためにホストシステムに画像情報信号を伝達する、請求項4又は5に記載の無線超音波プローブ。

【請求項7】

50

前記ケーブルが、ホストシステムから前記プローブに制御信号を伝達する、請求項4乃至6のいずれか1項に記載の無線超音波プローブ。

【請求項8】

前記第1のコネクタ部分が、少なくとも部分的に前記ケース内に配置され、保護皮膜により覆われる、請求項4乃至7のいずれか1項に記載の無線超音波プローブ。

【請求項9】

前記第1のコネクタ部分が、複数の接点を有し、前記第2のコネクタ部分が、第2の複数の接点を有し、前記第1及び第2の複数の接点は、前記第1のコネクタ部分が前記第2のコネクタ部分に結合される場合に、それぞれ一致する、請求項4乃至8のいずれ1項に記載の無線超音波プローブ。

10

【請求項10】

前記第1及び第2のコネクタ部分が一緒に結合される場合に、前記第1の磁石及び前記第3の磁石が新たな四極子を形成し、前記第2の磁石及び前記第4の磁石が別の新たな四極子を形成するように構成される、請求項4乃至9のいずれか1項に記載の無線超音波プローブ。

【請求項11】

前記第1及び第2のコネクタ部分は、所定の向きでのみ接続するように物理的に構成される、請求項4乃至10のいずれか1項に記載の無線超音波プローブ。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

20

【0001】

本発明は、医療診断システム、例えば超音波システム、及び特に、このようなシステムに着脱可能プローブを結合する磁気コネクタシステムに関する。

【0002】

本出願は、2007年6月1日に出願された米国特許出願第60/941427号の一部継続出願である。

【背景技術】

【0003】

医療診断用超音波、特にソノグラフィ(sonographers)の長年の不利点の1つは、走査用プローブを超音波システムに接続するケーブルである。これらのケーブルは、長く、しばしば、前記プローブ内に数ダース、数百、又は数千ものトランスデューサ素子からの多くの同軸ラインを含む必要性のために太い。結果として、これらのプローブケーブルは、扱うのに面倒であることがありえ、重いことがありうる。一部のソノグラフィは、走査の間に支えるために前記ケーブルを腕又は肩にかけることによりケーブル問題に対処しようとする。これは、多くの場合に反復性ストレス障害を引き起こすことがありうる。他の問題は、前記プローブケーブルが画像誘導外科手術の無菌フィールドを汚染することがありうることである。更に、これらのプローブケーブルは、かなり高価であり、しばしば前記プローブの最も高価な部品である。したがって、診断用超音波からプローブケーブルを取り除くという長年の要望が存在する。

30

【0004】

40

米国特許6142946(Hwang他)は、まさにこれを行う超音波プローブ及びシステムを記載している。この特許は、完全なビームフォーマを持つバッテリー式アレイトランスデューサプローブを記載している。送受信器は、取得された超音波データを、基地局として機能する超音波システムに送信する。画像処理及び表示は、前記超音波システム上で行われる。

【0005】

無線超音波プローブが、ケーブルの不便さからユーザを解放する一方で、ケーブルが無線プローブに対して必要とされうる又は望まれうる状況が存在する。例えば、ケーブルは、前記プローブ内のバッテリーを再充電するのに使用されることができる。前記バッテリーが走査処置中に残り少なくなる場合、ケーブルは、前記処置が完了される間、前記無線プロ

50

ープに電力供給する手段を提供することができる。他の場合に、ユーザは、様々な理由で前記超音波システムにつながれたプローブを持つことを好みうる。ケーブルは、無線リンクが適切に動作しているように見えない場合に処置が継続することを可能にしうる。したがって、これらの状況又は環境が生じるならば、これらの機能を実行するためにケーブルを持つことが望ましい。

【 0 0 0 6 】

教示が参照によりここに組み込まれる、公開された特許出願 WO 2 0 0 8 / 1 4 6 2 0 5 A 1 (米国特許出願第 6 0 / 9 4 1 4 2 7 号 (4 2 7 出 願)) は、ケーブルによりホストシステムに選択的に結合される無線超音波プローブを記載している。前記ホストシステムは、単に前記無線プローブに電力供給する、又は前記プローブのバッテリーを再充電するの
10
のに使用されることができる。前記ホストシステムは、前記無線プローブにより生成される画像データを処理又は表示するシステムであることもでき、前記ケーブルは、無線データリンクの障害の場合に有線で前記ホストシステムに前記画像データを提供するのに使用されることができる。

【 0 0 0 7 】

前記 4 2 7 出 願 に記載される例において、無線プローブは、磁気的な密閉されたコネクタシステムを使用して前記ホストシステムケーブルに選択的に結合される。このコネクタシステムは、前記プローブと前記ホストシステムケーブルとの間の分離した"クイック接続・切断"接続を提供する。
20

【 発 明 の 概 要 】

【 発 明 が 解 決 し よ う と す る 課 題 】

【 0 0 0 8 】

本発明は、前記プローブに対する前記ホストシステムケーブルの結合の強度を向上させ、特に、漂遊磁界の効果を減少させる磁気コネクタシステムに対する改良を有する。

【 課 題 を 解 決 す る た め の 手 段 】

【 0 0 0 9 】

本発明の好適な実施例は、1以上の四極子を形成するように配置された磁石のセットを有するコネクタシステムを使用する。この四極子配置は、医療的に安全な値が特定の応用又は処置に関する距離において達成されるように、磁場強度が距離に対して減少する比率を増加させる。
30

【 図 面 の 簡 単 な 説 明 】

【 0 0 1 0 】

【 図 1 】 本 発 明 の 好 適 な 実 施 例 を 有 す る 接 続 シ ス テ ム に よ り ホ ス ト シ ス テ ム ケ ー ブ ル に 結 合 さ れ た 手 持 ち 用 無 線 超 音 波 プ ロ ー ブ を 示 す 。

【 図 2 】 分 離 位 置 に お け る 接 続 シ ス テ ム を 持 つ 図 1 に 示 さ れ た 無 線 超 音 波 プ ロ ー ブ を 示 す 。

【 図 3 】 結 合 位 置 に お け る 図 1 及 び 2 に 示 さ れ る プ ロ ー ブ の 他 の 図 で あ る 。

【 図 4 】 図 1 ないし 3 に 示 さ れ る 本 発 明 の 実 施 例 の 接 続 シ ス テ ム を 有 す る 2 つ の コ ネ ク タ 部 分 を 示 す 。

【 図 5 】 図 4 に 示 さ れ る 本 発 明 の 実 施 例 の 接 続 シ ス テ ム の 他 の 実 施 例 を 示 す 。

【 発 明 を 実 施 す る た め の 形 態 】

【 0 0 1 1 】

第一に図 1 を参照すると、本発明を有する磁気接続システム 1 0 の一実施例を使用してホストシステムケーブル 2 0 に結合された無線超音波プローブ 5 が、示される。プローブ 5 は、遠位端 1 2 及び近位端 1 4 を持つ硬い高分子筐体又はケースで囲まれる。アレイトランスデューサに対するトランスデューサレンズ又は音響窓 1 6 は、遠位端 1 2 にある。この音響窓を通して、超音波は、前記トランスデューサアレイにより送信され、戻りエコー信号が受信される。アンテナは、前記プローブの近位端 1 4 において前記ケースの内側に配置され、基地局ホストに無線波を送受信する。前記無線プローブは、電力を提供する再充電可能バッテリーを含む。
50

【 0 0 1 2 】

無線プローブの主要な利点は、システムホストケーブル 20 に機械的に取り付けることなしに前記プローブを使用する能力であるのに対し、プローブ 12 をシステムホストシステムケーブル 20 に結合することが望ましい状況が存在する。システムホストケーブル 20 は、例えば、プローブ 12 に結合される場合に、前記プローブを再充電することができる電力を提供することができる。他の状況において、ソノグラフィが、超音波検査を行い、ビーパ (beeper) が、低バッテリー状況を示すように鳴る場合に、前記ソノグラフィは、前記プローブを使用して前記検査を行い続けることを望むかもしれない、バッテリー電力からケーブル電力に切り替えることを望むかもしれない。当該状況において、前記バッテリーが再充電する一方で、電力ケーブルに結合することが、望ましい。

10

【 0 0 1 3 】

前記プローブが前記システムホストケーブルに結合されているか又は分離されているかにかかわらず、しかしながら、磁気接続システムが前記結合を提供するのに使用される場合、漂遊磁界の効果は、最小化されなければならない。本発明は、前記プローブが結合位置にあるか又は分離位置にあるかにかかわらず、前記磁気接続システムの部分からの漂遊磁界の効果をも最小化する方法を提供する。参照によりここに組み込まれている前記 427 出願に開示された診断システムの一部として及びこれと併せての改良された接続システムの使用をも有するが、これに限定されない。

【 0 0 1 4 】

極に対して反対方向において向けられた偶数の磁石は、磁場強度が医療応用に関連する距離において減少する比率を最大化する。奇数の双極子磁石 (1、5 等) は、このように最適化されることができない。単一の磁石双極子の磁場強度は、例えば、距離の二乗の逆数として減少する。これと対照的に、四極子磁場の磁場強度は、比較的遠距離場において距離の三乗の逆数として減少する。Wikipedia (http://en.wikipedia.org/wiki/Quadrupole_magnet) に記載されるように、"最も単純な磁気四極子は、一方の N 極が他方の S 極の隣であり、逆も同様である、互いに平行な 2 つの同一の棒磁石である。このような構成は、双極子モーメントを持たず、その場合は、大きな距離において双極子のものより速く減少する。"

20

【 0 0 1 5 】

前記磁場強度を最小化することは、磁場に敏感でありうるペースメーカ又は薬物送達システムのような埋め込み型装置の近傍で超音波トランスデューサを使用する場合に重要である。前記 427 出願に記載されるように、前記ホストシステムケーブルの端部に接続されたコネクタの鉄鋼材に磁氣的に結合された前記プローブの前記近位端内に配置された 1 つの磁石を使用する代わりに、本発明は、少なくとも 1 つの四極子を形成するように前記磁気接続システムのそれぞれ反対の部分に配置された少なくとも 2 つの磁石を使用する。

30

【 0 0 1 6 】

図 2 は、システムホストケーブル 20 から分離された無線プローブ 5 を示し、更に、接続システム 10 の 2 つの部分を示す。

【 0 0 1 7 】

第 1 のコネクタ部分 10 a は、プローブ 5 の近位端に配置される。図 4 に詳細に示されるように、コネクタ部分 10 a は、プローブ 5 の長手軸に実質的に垂直である実質的に平らな面 30 を示す。

40

【 0 0 1 8 】

第 2 のコネクタ部分 10 b は、ホストシステムケーブル 20 の端部 18 に配置される。図 4 に詳細に示されるように、コネクタ部分 10 b は、残りのコネクタ部分の長手軸に実質的に垂直であり、図 3 に示されるように部分 10 a と楽に結合するように設計された実質的に平らな面 40 を示す。

【 0 0 1 9 】

前記 427 出願に論じられるように、様々なタイプのホストシステムケーブル及びコネクタ、例えば、前記ホストシステムに対する接続に対する一方の端部におけるマルチコン

50

ダクタUSBケーブルコネクタ及び前記ケーブルを前記プローブに接続するための他方の端部における磁気コネクタシステムが、前記ホストシステムに無線プローブを選択的に結合するのに使用されることができる。このようなケーブルは、前記427特許に記載されている。

【0020】

図4に示される実施例において、4つの磁石のセットが使用される。2つの磁石80及び85は、実質的に平らな面30の近くで部分10a内に配置される。これらは、この例において、部分10aに内に取り付けられることを示すように破線で示される。磁石80及び85は、互いに平行に配置され、それぞれの極は、S-N、N-S構成に配置される。2つの他の磁石90及び95は、平らな面40の近くかつ部分10b内に配置され、この例において、部分10b内に取り付けられることを示すように破線で示される。これらも、互いに平行に配置され、それぞれの極は、S-N、N-S構成で配置される。

10

【0021】

磁石80及び85の対は、極のそれぞれが平らな面30の角の近くであるように配置される。磁石90及び95の対は、同様に平らな面40に対して配置される。接続部分10bは、平らな面40の周りに延在し、かつ表面から突き出す、延在するヘリ(lip)15を持つ。ヘリ15は、図3に示されるように、部分10a及び10bが接続される場合に、部分10aの表面に合うように設計される。

【0022】

接続部分10a及び10bそれぞれの平らな面30及び40は、十分に近い距離で互いの近くに配置される(例えば、互いの近くに又は反対に押される)場合、4つの磁石80、85、90及び95の極は、一緒に接続部分10a及び10bに参加するように反応し、平らな面40を越えて延在し、対応する埋め込まれた埋め込み型の金めっき接点パッド210と合うように配置された1以上の接点金めっき"ポゴ(pogo)"ピン200の間の安全であるが取り外し可能な接続を形成する。図4に示される例は、接点手段として金めっきポゴピン200及び接点パッド210を使用するが、本発明は、前記磁気接続システムとともに使用するのに適した如何なるタイプのマッチした接点手段、例えば、ばね仕掛けの平らな光ファイバ接続又は極短距離(very short range)無線接続の使用を有する。

20

【0023】

四極子関係は、部分10aの配置された磁石80と85との間に存在する。他の四極子関係は、部分10bの磁石90と95との間に存在する。各部分における四極子は、一緒に結合されていない場合に各部分から来る磁場強度を最小化する。

30

【0024】

部分10a及び10bが、図5に示されるように互いに対向するように配置される場合に、N極80a、85a、90a及び95aは、S極90b、95b、85b及び85bにそれぞれ引きつけられる。磁石のこの構成は、図3に示されるようにぴったり適合され先細にされたヘリ15に沿って、部分10aを10bに結合する磁気接続を生じる。この結合位置において、追加の四極子が、磁石80と90の間、及び85と95との間に形成され、これにより結合された部分から来る最小化された磁場強度を提供する。

【0025】

4以上の磁石が、図4及び5に示されるように張力緩和(例えばヘリ15)の長さ(L)に対する最小距離(d)において離間される場合、そうでなければ前記磁気接続をはがす非軸(non-axial)側面負荷(side-loads)500に対する抵抗は、増加する。したがって、コネクタ部分10bの"フットイング(footing)"は、増加される。1又は2の磁石は、前記ケーブルにおける側面負荷引力の効果に反対するように全ての方向におけるこの反対力(counter leverage)を提供することができない。

40

【0026】

図4に関連して上に記載された本発明の実施例は、前記結合位置において最小化された漂遊磁界を提供するが、N極とS極との間の対称な引力のため、前記部分が、反対の間違った形で磁氣的に結合されることができる、例えば、N極80a、85a、95a及び9

50

0 a が、S 極 9 5 b、9 0 b、8 5 b 及び 8 0 b とそれぞれ結合することが可能である。このタイプの構成は、接点が逆転されるので、深刻な接続問題を引き起こし、機器が適切に機能しない。

【 0 0 2 7 】

この問題を防ぐ 1 つの方法は、各磁石の N 極が互いの上に並べられ、S 極が同様に並べられるように磁石 8 0 及び 8 5 の極を配向することである。換言すると、磁石 8 5 は、S 極 8 5 b が S 極 8 0 b と並べられるように 1 8 0 度回転され、同様に磁石 9 5 は、S 極 9 5 b が S 極 9 0 b と並べられるように 1 8 0 度回転される。この構成において、前記部分は、各磁石の N 極及び S 極が、磁氣的に引きつけられるように並べられる場合に適切に接続された接点を持つ。前記部分を不正確に結合する試みは、磁石 8 0 及び 9 0 の極の間並びに磁石 8 5 及び 9 5 の極の間の磁氣的反発の結果となる。この構成が、部分 1 0 a 及び 1 0 b の間違っただけの接続を防ぐ一方で、四極子は、もはや前記分離位置における各部分において存在しない。それぞれ磁石 8 0 及び 9 0 と 8 5 及び 9 5 の間の四極子関係は、しかしながら、部分 1 0 a 及び 1 0 b が一緒に結合されている場合には、依然として存在するが、前記部分が結合されていない場合の漂遊磁界干渉の減少及び各個別の部分において四極子を持つ利点は、失われる。

10

【 0 0 2 8 】

図 5 は、図 4 に示される四極子関係の利益を依然として維持しながら部分 1 0 a 及び 1 0 b を間違っただけの結合を防ぐ他の方法を記載している。

【 0 0 2 9 】

20

図 5 において、図 4 に記載されるように配置された前記磁石が示される。しかしながら、前記接点の不正確な接続を防ぐために（図 5 に示されないが）、それぞれ部分 1 0 a 及び 1 0 b の上部は、これらの部分の底部に対して先細にされることができる。このようにして、前記部分は、前記磁気構成が不正確な結合を許可する場合でさえ、前記 2 つの部分が一方向においてのみ物理的に結合されることができるようになる。"適合"される。"タブ"又は"ノッチ"等のような他の適合メカニズムも、使用されることができる。

【図 1】

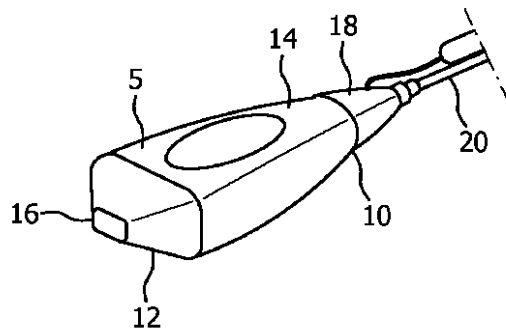


FIG. 1

【図 2】

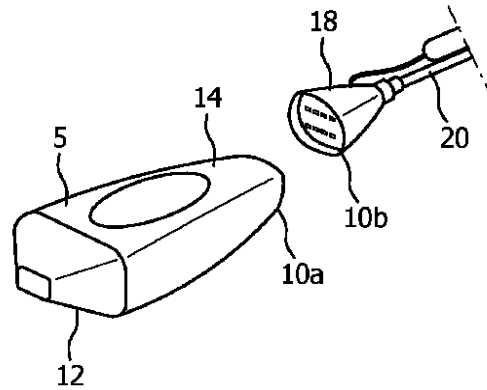


FIG. 2

【図 3】

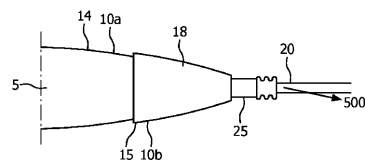


FIG. 3

【図 4】

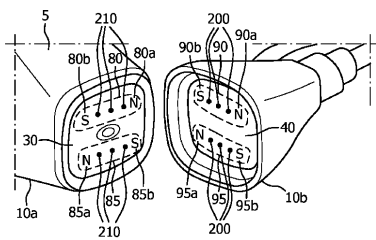


FIG. 4

【図 5】

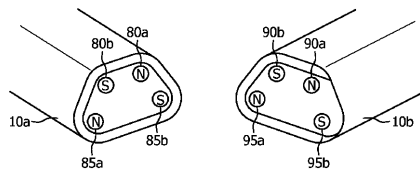


FIG. 5

フロントページの続き

- (72)発明者 ノードグレン ティモシー エフ
アメリカ合衆国 ニューヨーク州 10510-8001 ブリアクリフ マノアー 345 ス
カボロー ロード ピーオー ボックス 3001
- (72)発明者 ブレシュビエル トレーシー シー
アメリカ合衆国 ニューヨーク州 10510-8001 ブリアクリフ マノアー 345 ス
カボロー ロード ピーオー ボックス 3001
- (72)発明者 フレイサー ジョン ドグラス
アメリカ合衆国 ニューヨーク州 10510-8001 ブリアクリフ マノアー 345 ス
カボロー ロード ピーオー ボックス 3001

合議体

審判長 阿部 利英

審判官 富岡 和人

審判官 中川 隆司

- (56)参考文献 国際公開第2008/146205(WO, A1)
米国特許第7329128(US, B1)
特表2010-528698(JP, A)
特公昭50-9990(JP, B1)
特表2003-504815(JP, A)
特開平11-144803(JP, A)
特開2000-353571(JP, A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

H01R 13/639

专利名称(译)	磁性诊断探针连接器系统		
公开(公告)号	JP6134513B2	公开(公告)日	2017-05-24
申请号	JP2012526149	申请日	2010-08-03
[标]申请(专利权)人(译)	皇家飞利浦电子股份有限公司		
申请(专利权)人(译)	皇家飞利浦电子股份有限公司的Vie		
当前申请(专利权)人(译)	皇家飞利浦NV哥德堡		
[标]发明人	ノードグレンティモシーエフ ブレシュビエルトレーシーシー フレイサージョンドグラス		
发明人	ノードグレン ティモシー エフ ブレシュビエル トレーシー シー フレイサー ジョン ドグラス		
IPC分类号	H01R13/639 A61B8/00 A61B17/34		
CPC分类号	H01R13/6205 H01R13/6456 H01R2201/12		
FI分类号	H01R13/639.A A61B8/00 A61B17/34.510		
优先权	61/238419 2009-08-31 US		
其他公开文献	JP2013503425A		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

适用于无线超声探头的磁连接系统包括多个磁体，以便以最小化装置中杂散场的影响的方式促进探头与诊断或临床装置之间的耦合。使用它。

(19) 日本国特許庁(JP)	(12) 特 許 公 報(B2)	(11) 特許番号 特許第6134513号 (P6134513)
(45) 発行日 平成29年5月24日(2017.5.24)	(24) 登録日 平成29年4月28日(2017.4.28)	
(51) Int. Cl. H01R 13/639 (2006.01) A61B 8/00 (2006.01) A61B 17/34 (2006.01)	FI H01R 13/639 A61B 8/00 A61B 17/34 510	
請求項の数 11 (全 9 頁)		
(21) 出願番号 特願2012-526149 (P2012-526149)	(73) 特許権者 580000248 コーニンクレッカ フィリップス エヌ ヴェ KONINKLIJKE PHILIPS N. V. オランダ国 5656 アーエー アイン ドフエン ハイテック キャンパス 5 High Tech Campus 5, NL-5656 AE Eindhoven	
(86) (22) 出願日 平成22年8月3日(2010.8.3)	(74) 代理人 100122769 弁理士 前田 秀仙	
(65) 公表番号 特表2013-503425 (P2013-503425A)		
(43) 公表日 平成25年1月31日(2013.1.31)		
(86) 国際出願番号 PCT/JP2010/053523		
(87) 国際公開番号 WO2011/024091		
(87) 国際公開日 平成23年3月3日(2011.3.3)		
審査請求日 平成25年8月1日(2013.8.1)		
審判請求日 不願2015-21983 (P2015-21983/J1)		
審判請求日 平成27年12月11日(2015.12.11)		
(31) 優先権主張番号 61/238,419		
(32) 優先日 平成21年8月31日(2009.8.31)		
(33) 優先権主張国 米国(US)		
最終頁に続く		
(54) 【発明の名称】 磁気診断プローブコネクタシステム		